



Newsletter

奈良女子大学附属学校園

No.5 2007/5/25

附属学校部長に就任して

野口 哲子（附属学校部長・理学部）

附属学校部長の仕事は入学式の参列から始まりました。各学校園、大学の学部と大学院の計5つの式に参列し、幼稚園の3歳児から24歳以上の大学院生がそれぞれの年齢らしい緊張感に包まれながらも、希望に胸を膨らませている様子を見ました。国立大学法人は全国に87ありますが、幼稚園から大学院まで擁するのは7大学だけです。その中で、本学は教育学部・文教育学部を持たない唯一の大学ですが、各附属学校園は全国的に見ても突出した業績を挙げてきました。中等教育学校は常に時代の流れを読み、中高一貫教育を行う中等教育学校に指定され、スーパーサイエンスハイスクールの指定も受けています。小学校は歴史ある“学習法”を守り続け、毎年開催される2月の学習研究発表会には、全国から1000人以上の参加者を迎えています。幼稚園では、「遊びから学ぶ」教育方針で研究を進め、幼児教育をリードしています。

個性豊かな各学校園ですが、平成16年の附属学校部新設を機に、相互に協力・連携し、早くも平成



18年度には、三学校園共同で研究開発学校（3年間の指定を文部科学省より受けました。また、大学の食教育研究推進事業に協力し、先導的な食教育の現場として活躍し始めました。附属学校園が大学との連携をより強め、本学附属ならではの特色ある教育実践を推進し続けるように、努力したいと思います。同時に、県・市町村の教育委員会の役割も担う附属学校運営委員会を通して、附属の幼児・児童・生徒たちが学習の楽しさを感じ、人間性豊かに成長するように見守っていききたいと思います。

青春の時

前川 昌子（附属中等教育学校長・生活環境学部）

2004年4月に附属学校部が発足して、附属学校運営委員会に出席するようになるまで、附属学校に関しては教科教育法の授業や授業参観、教育実習でお世話になっているということくらいしか知識はありませんでした。今年度から中等教育学校長という大役をお引き受けし、式典や行事において挨拶をしたり、職員会議に出席するようになりました。附属学校連盟の会議にも顔を出しています。そんな中、職員会議での先生方の発言を聞きながら、ここは教育をする場なのだと当たり前のことを新鮮に感じています。校内で見かける生徒たちの凛々しさを新鮮に感じています。

最近、青春時代のびたせいか、青春という言葉に耳にすることが少なくなった気がします。入学式で歌われた学友の歌の中で、久しぶりにそれを耳にしました。

日が昇る たかまど山に
さわやかに 草木はのびる
今ぞ われら 青春の時
たくましく 明るくのびる



一粒の種から一万個以上のトマトが実る巨木を育てたことでも有名な、植物学者の野沢重雄氏によると、「種によしあしはない。大事なことは、まだ小さい苗のときに、自分はどんどん成長しても必要なものは十分与えられるのだという安心感があること。そうすれば苗は世界を信じ、自分を信じ、疑うことなくどこまでも伸びていく」そうです。

生徒たちが、青春の時、たくましく明るくのびることができるよう、そして将来、無限の可能性を開花させることができるよう、ささやかながらお手伝いができればと願っています。

本校のSSH指定の5年間のうち、2年を終えることになった。研究開発の6つの柱から総括的に、2年次の成果を概観する。

1. 基礎・基本の徹底

SSH事業については、数学科、理科だけでなく国語科、英語科、総合的な学習、進路指導部などと連携して、1年次よりもスムーズに全校体制として進められるようになった。サイエンス基礎講座については、1年次と同様2回実施した。できるだけ多くの生徒、保護者にサイエンスのおもしろさを広めるといった役割は果たしていると考えている。

2. 数学的リテラシーの育成

数学的リテラシーに関しては、1年次はPISAにおける研究の枠組みについて理解を深めた。今年度はそれをさらに進める形で、数学的リテラシー育成の視点を取り入れた教材の開発を進め、公開研究会等で実践授業をした。

3. 科学的リテラシーの育成

3年で「課題研究入門」を実施し、実験仮説の設定、検証、考察、結果の発表という科学実験の一連の流れを生徒に指導し体験させることができた。また6年の「課題研究」は物理・化学・生物の各科目で実施し、独自のテーマで取り組んだグループも育ってきた。

3年次から実施する「数理科学」のために、数学科・理科で合同の教科会議を実施し、同じ教材を数学的な面と理科的(科学的)な面の両面から見て、教材としての可能性や授業の構成等を議論した。昨年度は、合同で授業研究を実施したが、今年度は教材開発で共同研究できたといえる。



4. 問題解決能力の育成

「NSL講座」について、試行的段階であるが、「多面体」というテーマに沿って数学、建築、化学について5回の講義が実施できた。またサイエンス研究会が日ごろ研究している内容を単位認定できるように、総合的な学習として「テーマ研究」を設置した。課題としては、評価方法について研究を進める必要がある。

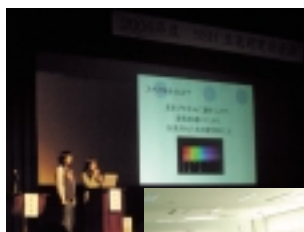
5. 大学・研究機関との連携

「サイエンス研究会」の生徒を本学に引率して、研究のアドバイスや、実験の指導を受けることができた。数名の大学の先生方から指導を受ける機会を得たことは、高大連携のシステム化につながると考える。

6. サイエンス研究会

2年次、サイエンス研究会の成長は著しいものがあったといえる。7月に奈良高校との合同研究発表会、10月に公開研究会での口頭発表およびポスター発表、12月に校内生徒研究ミニ発表会、2年次の締めとして2月にSSH生徒研究発表会を実施した。このように、多くの発表の場を設けることで生徒の研究心を刺激し、その都度サイエンス研究会の担当教員を中心に、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法を指導した。発表の回数を重ねるごとに、生徒自身が表現方法を改良し、研究した内容をうまく伝える工夫をした。その結果、2月に実施したSSH生徒研究発表会では、充実した研究論文集を発信することができ、口頭発表自体も、大変おもしろい内容となった。見学にこられた運営指導委員や他校の教員らからも高い評価を得た。

また、物理チャレンジ2006での入賞(銀賞および優良賞)、日本物理学会Jr.セッションでの最優秀賞の受賞、数学オリンピックへの参加、全国算数・数学教育研究全国大会での生徒の発表など、多数の活発な活動ができた。



上記の他にSSH特別枠として、生活科学リテラシー育成のために、「生活科学」、「科学と技術」のカリキュラムを開発した。本年度は、SSH指定3年目となり、今までの成果をまとめる年でもある。積極的に研究を進めて行きたい。

本学附属学校園が文科省より研究開発指定校に指定されたことを受けて、平成19年2月15日(木)及び16日(金)の2日間にわたり、附属小学校の学習研究発表会と共に、研究開発1年目としての公開研究会を附属幼稚園で行いました。全国各地から幼稚園・小学校合わせて、約1000人の参加があり、のびのびと遊ぶ子どもの姿や子どもが主体的に学習する様子を見ていただきました。

全体会では、本学の久米学長も臨席くださり挨拶を頂きました。そして、研究テーマ「幼・小・中等15年間にわたり、事物認識とその表現形成の徹底化を通して、独創的で『ねばり強い』思考能力を育成する教育課程の研究開発」に基き、研究開発指定校1年目の取り組みを研究開発統括委員・附属幼稚園教諭の松田が発表しました。

テーマ別に行った分科会では、教育システム研究開発センター員の協力も得て3附属学校園の教師で担当し、提案発表を行いました。指導助言者として、奈須正裕先生(上智大学)、森脇健夫先生(三重大学)、岡本夏木先生(元京都女子大学)、松本健義先生(上越教育大学)、麻生武先生(奈良女子大)に来て頂き、本研究に大きなご示唆を与えていただきました。東

京成徳大学・元国立教育政策研究所教育課程調査官の神長美津子先生の講演「遊びの中での学び」も、参加者に大変好評でした。

それぞれ特徴ある研究実績を有する附属学校園ですが、今回の様に3附属学校園の教師が協力して研究会を開催することは初めてであり、画期的な出来事です。大学と附属学校園の協力体制を、他校園や地域にアピールする機会にもなったのではないのでしょうか。研究開発は3年間です。今年度、来年度とも、よりいっそう附属学校園と大学が協力して、研究を進めていきたいと思えます。



附属幼稚園 TOPICS 「みんなで行こう！海へ山へ」

“大型バス7台を連ねての遠足”と聞いた方はみんな驚かれますが、本園では毎年、全園児親子参加の遠足を続けています。潮干狩りが多いのですが、昨年のように水族館に行く時もあります。潮干狩りは奈良に住む子ども達が海に親しむ一つの機会として始まり、指導計画の中にも位置付けられてきましたが、最近では行先や内容については保護者と話し合っています。

今年は、5月中旬に津市御殿場浜に潮干狩りに行きました。遠浅の砂浜で子ども達は五感を働かせて貝拾いや海辺の生き物と触れながら、のびのびと遊びました。



そして11月3日“文化の日”には、若草山を一重目から三重目まで登り、万葉道路を春日大社手前の水谷橋まで降りてくる遠足をします。山上から奈良市街を見渡したり、紅葉の中での森林浴をしたりして、親子で足腰を鍛えながら非常に健康的な一日を過ごします。

400名近い親子遠足を無事に済ませるためには、日頃経験しない我慢も必要ですが、親子で集団行動のルールやマナーを学ぶ良い機会となり、友達や先生、家族みんなで楽しんだ一日は幼少期の貴重な思い出となります。今後も、保護者と楽しく連携して続けたいと思っています。



附属小学校 TOPICS 「元気な1年生が入学」

4月10日(火)附属小学校に元気な1年生が80名入学しました。待ちに待った小学校生活で、どの子の顔も緊張と期待でいっぱいでした。入学式が終わると、それぞれの1年生は、担当の6年生のお兄さん、お姉さんと対面し、手をつないで学校案内をしてもらいました。1年生も6年生も嬉しい1時間あまりのふれあいでした。

次の日からは、朝早くから張り切って登校です。保護者に手をつないでもらって、元気よく登校しました。正門で、担任の先生にご挨拶も上手にできました。教室に入ると、6年生が待っていてくれます。可愛い1年生に6年生が、丁寧に朝の片づけから朝の会の歌まで教えてくれます。いよいよ1年生の学校生活がスタートしました。

19日(木)奈良西警察署のおまわりさんが2名みえて、「防犯訓練」をしてもらいました。登下校のときに、不審な人がいたら、大きな声を出して逃げまじょうと教えてもらいました。防犯ベルもちゃんと鳴るか点検することも教えてもらいました。自分

の安全に気をつけることにも1年生がたくましくなっていました。

28日(土)は、春の運動会が行われました。初めての運動会でしたが、2年生と力を合わせた「つなひき」も、6年生と一緒に走った「なかよしかけっこ」も、大変元気にできました。最後の「附小音頭」も6年生のお兄さん、お姉さんに教えてもらいながら、輪になって楽しく踊りました。

元気な附属小学校の1年生がこれからどのように大きく成長していくのか、保護者と共に楽しみです。



附属中等教育学校 TOPICS 「グラウンドの芝生化構想」

附属中等教育学校では、創立百周年記念事業の一環として、運動場北側約1haの芝生化を考えています。今まで、芝生化については、数千万円を必要とする改修費用や芝生の維持管理の点で問題点が多く、見送られてきました。

しかし、今回の芝生化計画は、以前の構想とはかなり内容が異なります。従来の工法のように芝生張付や維持管理に莫大な費用がかかるわけではありません。無農薬で芝生を育て、さらに冬芝をオーバーシーディングします。NPO「グリーンスポーツ鳥取」の中野先生(鳥取大学農学部)の指導を受けて実施します。同NPOは、新しい技術開発によって、鳥取・鳥根の学校で既に多くの実績をあげています。



育苗について語る中野先生

中野先生とサッカー部員

芝は繁殖力の強いバミューダ芝ティフトンで、維持費と管理労力を抑えるため、散水設備等の措置を講じます。平成19年度は、500m²程度を実験的に育成し、経験を積んだ上で、平成20年度に本格的な芝生化を行う予定です。5月4日には、中野先生が直接来校され、現状視察と技術指導を行っていただきました。

芝生化が実現すれば、体育の授業や体育大会等の行事で利用することが可能になります。けがの心配がなく、情操にも役立つと思われます。また、サッカー部をはじめとして、多くの競技で利用することが可能で、技術上達も早いと思います。外部にも利用してもらおう予定です。幸い、大学の理解をはじめ、同窓会役員やサッカー部OB会等、多くの協力者がおられます。

格安とはいえ経費は必要です。貯水槽の設置等は学校で行う予定ですが、芝刈り機(乗車型:約95万円)やスプリンクラー(設置費:約400万円)が必要です。井戸も掘りたいと思っています。現在、百周年記念事業として同窓会等に寄付をお願いしています。

奈良女子大学附属学校園 Newsletter 05

2007年5月発行

奈良女子大学附属学校部

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL. 0742-20-3938

Web <http://www.nara-wu.ac.jp/fuzoku/>